

資 料

近世絹織物業における産業資本の形成

——伊勢崎織物発展概観——……………木村隆俊 140

第25卷 第5号 (1955年12月)

論 文

明治政府の鉄鋼政策

——その確立に至る陣痛の一断面——……………大沼健吉 1

英国農村婦人の変貌

——第二次インクロージャを中心にして——……………小林巧 37

マルクス「貨幣論」の方法について(五)

——宇野弘藏氏の教示を仰ぐ——……………佐々木 晃 83

貿易経営に於ける信用限度……………浜谷源藏 123

第25卷 第6号 (1956年2月)

論 文

マルクス社会思想の発展と批判(その二)

——ドイッチェ・イデオロギイ——……………加田哲二 1

株式会社の自己資本について……………片岡義雄 28

損害填補理論の史的考察……………石田祐六 46

中国觀察の基本的要件……………岩崎金一郎 66

「デカプリスト運動」序説

——ロシア社会思想史研究の一節——……………小林宗三郎 79

「商業学の在り方」について(覚書)(下)

——「『商業』概念の多義性と混乱」続篇——……………吉田 隆 104

第26卷 第1号 (1956年4月)

論 文

米国景気の特質と長波性……………高木友三郎 1

マルクス社会思想の発展と批判(その三)

——「哲学の貧困」と「共産党宣言」——……………加田哲二 15

17世紀アメリカにおける金融論

——アメリカ経済思想史のためのノート——……………岡本清造 59

紹介

忘れられた思想家ウィリアム・トムソンの婦人解放論  
 ——リチャード・パンカースト著『ウィリアム・トムソン』の紹介を兼ねて—— ..... 小林 巧 98

資料

価値論のヘーゲル的解釈について  
 ——北川宗蔵氏著『経済学方法論』の検討—— ..... 佐々木 晃 110

第26巻 第2号 (1956年6月)

論文

営利事業の利潤 ..... 大館 堯 寿 1  
 確率論の二・三の問題 ..... 佐藤 輝 実 25  
 急進派デカブリズムとペ・イ・ペステルの政治経済思想(上) ..... 小林 宗三郎 43  
 新中国の協同組合の運営方法(一) ..... 大塚 恒 雄 85  
 経営管理会計と「限界分析」  
 ——最近のアメリカにおける展開を中心に—— ..... 真 船 洋之助 104

資料

最近の「寄生地主制」をめぐる諸論争とその反省 ..... 木 村 隆 俊 135

第26巻 第3号 (1956年8月)

論文

徳川時代の庶民金融機関としての「座頭金」 ..... 井 関 孝 雄 1  
 17世紀アメリカにおける価格に関する諸見解(上)  
 ——アメリカ経済思想史のためのノート—— ..... 岡 本 清 造 25  
 急進派デカブリズムとペ・イ・ペステルの政治経済思想(下) ..... 小林 宗三郎 52  
 資本論首章の方法論的研究(三の一)  
 ——ヘーゲル「論理学」による第三節の解明—— ..... 佐々木 晃 86  
 新中国の協同組合の運営方法(二) ..... 大塚 恒 雄 132

第26巻 第4号 (1956年10月)

論文

昭和31年度経済白書要旨と批判 ..... 高 木 友三郎 1  
 日本標準産業分類に関する政令改正の要望に答えて ..... 森 数 樹 21  
 テイラー・システムと標準原価計算 ..... 土 屋 嘉一郎 42  
 資本論首章の方法論的研究(三の二)  
 ——ヘーゲル「論理学」による第三節の解明—— ..... 佐々木 晃 58

備船契約に於ける Demise Charter について(一) .....	鷹 取 稠	95
絹織物業における資本制生産の形成 ——伊勢崎織物地帯を中心として—— .....	木 村 隆 俊	120

第26巻 第5号 (1956年12月)

論 文

鹿劫記周辺(一) .....	山 崎 与右衛門	1
17世紀アメリカにおける価格に関する諸見解(下) ——アメリカ経済思想史のためのノート—— .....	岡 本 清 造	34
利子率決定論の二形態(一) .....	田 中 稔	53
「祖国の子」をめぐるラヂシチェフとデカプリスト ——ロシア愛国思想の抬頭—— .....	小 林 宗三郎	73
アメリカ民主主義の形成過程における経済組織の発展についての一考察(一) .....	佐々木 忠 一	102

第26巻 第6号 (1957年2月)

論 文

官営八幡製鉄所の設立とその性格 .....	大 沼 健 吉	1
経済変動と国民所得 .....	迫 間 真治郎	52
商品史学の提唱 ——付 砂糖の史的考察—— .....	岩 崎 金一郎	78
ナポレオン戦後におけるロシア愛国思想の結集と展開 ——「サユース・スパセーニア」から「サユース・ブラゴヂェンストビア」 へ—— .....	小 林 宗三郎	91
ロードス法成立の歴史的経済的背景 (未定稿一) .....	吉 田 隆	124

第27巻 第1号 (1957年4月)

論 文

マーシャル研究 ——その人と業績を顧る—— .....	大 館 堯 寿	1
中国協同組合の動向 .....	山 下 祥 一	56
資本論首章の方法論的研究(三の三) ——ヘーゲル「論理学」による第三節の解明—— .....	佐々木 晃	88

第27卷 第2号 (1957年6月)

論 文

スミス・マルサスの投下労働と支配労働論 ——利潤の源泉は何らかの独占性にある——	高 木 友三郎	1
漁場賃料と絶対地代諸法則 ——とくに絶対的漁場賃料の形成・消滅条件をめぐって——	岡 本 清 造	22
離路と運送人の責任	浜 谷 源 蔵	101
資 料		
イギリス毛織物工業における資本家織元	木 村 隆 俊	113

第27卷 第3号 (1957年8月)

論 文

マルクス経済理論の吟味(一)	迫 間 真治郎	1
初期デカプリスト運動における精鋭主義と啓蒙主義 ——「サユース・ブラゴヂェンストビア」の成立をめぐる諸問題——	小 林 宗三郎	27
資本論首章の方法論的研究(三の四) ——ヘーゲル「論理学」による第三節の解明——	佐々木 晃	77
資 料		
新中国の現行税制(一)	大 塚 恒 雄	119

第27卷 第4号 (1957年10月)

論 文

32年度経済白書の要旨と批判	高 木 友三郎	1
利子率決定論の二形態(二)	田 中 稔	23
資本論首章の方法論的研究(三の五) ——ヘーゲル「論理学」による第三節の解明——	佐々木 晃	43
封建「共同体」に関する研究覚え書 ——絹織物地帯における農業構造分析のために——	木 村 隆 俊	72
資 料		
新中国の現行税制(二)	大 塚 恒 雄	127

第27卷 第5号 (1957年12月)

論 文

商業及び貨幣の起源(一)(覚え書)	吉 田 隆	1
-------------------	-------	---

アメリカ民主主義の形成過程における經濟組織の發展についての一考察(二)

——ピューリタン植民地としてのプリマス建設とその社会組織の發達—— … 佐々木 忠 一	35
テイラー・システムと賃金形態 …………… 泉 卓 二	89
資 料	
新中国の現行税制(三) …………… 大塚 恒 雄	140

第27卷 第6号 (1958年2月)

論 文

鹿劫記周辺(二) …………… 山崎 与右衛門	1
漁場賃料と差額地代(第一形態) 諸法則(上)	
——とくに差額(第一形態)的漁場賃料の形成・減少・消滅の諸条件をめぐって—— …………… 岡本 清 造	31
バーナード研究の一齣 …………… 土屋 嘉一郎	87
商業及び貨幣の起源(二)(覚え書) …………… 吉田 隆	110
近世商人営利思想の一考察 …………… 蔵 並 省 自	149

第28卷 第1号 (1958年4月)

論 文

漁場賃料と差額地代(第一形態) 諸法則(下)	
——とくに差額(第一形態)的漁場賃料の形成・減少・消滅の諸条件をめぐって—— …………… 岡本 清 造	1
資本論の方法論的研究序説(上)	
——ヘーゲル哲学体系によるマルクス経済学の解明—— …………… 佐々木 晃	73
明治維新に至る商品經濟の發展(上)	
——上州養蚕, 製糸業を中心として—— …………… 木村 隆 俊	115

第28卷 第2号 (1958年6月)

論 文

漁場賃料と差額地代(第二形態) 諸法則(上) …………… 岡本 清 造	1
コール市場に就いて …………… 吉田 寛	42
明治維新に至る商品經濟の發展(下)	
——上州養蚕, 製糸業を中心として—— …………… 木村 隆 俊	79
研 究	
中国貨幣史(一) …………… 大塚 恒 雄	115
紹 介	
藻利重隆著『勞務管理の経営学』 …………… 泉 卓 二	138

第28卷 第3号 (1958年8月)

論 文

漁場賃料と差額地代(第二形態) 諸法則(下)……………	岡 本 清 造	1
バーナードの「組織」概念……………	土 屋 嘉一郎	65
経営価格政策		
——J・ディーンの所論を中心として——……………	真 船 洋之助	79

研 究

中国貨幣史(二)第二節 貨幣經濟の確立……………	大 塚 恒 雄	111
--------------------------	---------	-----

紹 介

ミルダール, クライン共著『婦人の二つの役割』……………	小 林 巧	148
------------------------------	-------	-----

第28卷 第4号 (1958年10月)

論 文

元禄・享保を中心とした商人観……………	加 田 哲 二	1
ポエーム・バヴエルクの利子論について……………	田 中 稔	42
資本論の方法論的研究序説(下の一)		
——ヘーゲル哲学体系によるマルクス経済学の解明——……………	佐々木 晃	72
再び「商業学の在り方」について(覚書)		
——商業学より商学へ——……………	吉 田 隆	89
經濟成長率と生産函数		
——ハムバーグの所論を中心として——……………	近江谷 幸 一	134

第28卷 第5号 (1958年12月)

論 文

差別的漁場賃料全般に関する一般的諸結論(上)……………	岡 本 清 造	1
イギリス医療保障の理論と實際……………	高 須 裕 三	72
貢献利益の計算		
——限界理論の経営学的適用——……………	真 船 洋之助	98

資 料

上州絹織物業における流通機構について(上)		
——商人ギルド規制の崩壊過程——……………	木 村 隆 俊	118

第28卷 第6号 (1959年2月)

論 文

元禄前後における江戸の呉服屋	加田 哲 二	1
差額の漁場賃料全般に関する一般的諸結論(二)	岡本 清 造	37
啓蒙期ロシアにおける諷刺雑誌の抬頭		
——ロシア定期刊行物の発達について——	小林 宗三郎	72
貨幣機能の分裂と貨幣概念の混乱(一)		
——goldなき世界の貨幣—貨幣の新範疇(試論)—	吉田 隆	106
職務給制度の一般的考察	泉 卓 二	145

第29卷 第1号 (1959年4月)

論 文

亨保改革と米価問題	加田 哲 二	1
差額の漁場賃料全般に関する一般的諸結論(三)	岡本 清 造	51
資本論の方法論的研究序説(下の二)		
——ヘーゲル哲学体系によるマルクス経済学の解明——	佐々木 晃	118
近世絹織物業における織元経営について(上)	木村 隆 俊	137
研 究		
経済成長の理論的分析について	野本 千 秋	161

第29卷 第2～6号 (1959年10月)

日本大学創立70年記念特集号

発刊の辞

論 文

川柳・随筆より観たる徳川時代における旗本の金融機関「蔵宿」(礼差)	井 関 孝 雄	1
戦後わが国の失業対策概観	井 手 生	45
人間関係論における組織理論		
——レスリスパーガーの所論を中心として——	泉 卓 二	68
商品学文献考		
——日本商品学70年の歩み——	岩 崎 金一郎	89
新経営者社会における労使の理解と信頼に関する研究		
——パートナーシャフトを中心として——	宇尾野 宗 尊	108
古典学派の雇傭理論	大 館 堯 寿	143
新中国農業協同組合の発展改組に伴う「人民公社」の成立	大 塚 恒 雄	161
社会科学に於ける事実認識と価値判断	大 坪 重 明	188

中小工業問題の問題点	大沼健吉	211
貸付資金説と流動性選好説	近江谷幸一	232
ドイツ関税同盟論		
——ヨーロッパ共同市場との関連——	岡村邦輔	244
北米合衆国の農業経済構造の一断面		
——主として1950年農業センサスに基づいて——	岡本清造	264
償却における減価の諸見解	小田切松義	294
商業の発展と商業資本主義	加田哲二	319
マーケティング機能分析における一貫性の問題	河原茂太郎	363
近世絹織物業における織元経営について(下)	木村隆俊	385
近代経済学的雇用論争批判		
——ピグウ・ケインズの論争を中心として、とくに景気変動論との関連において——	桑原晋	409
社会保障の経済的考察	小林幾次郎	440
社会経済学の誕生	小林巧	465
生産物価格の構成比率	佐原貴臣	485
資本論の方法論的研究序説(下の三)		
——ヘーゲル哲学体系によるマルクス経済学の解明——	佐々木晃	496
アメリカ民主主義の形成過程における経済組織の発展についての一考察(三)	佐々木忠一	524
減価償却の自己金融機能	杉井弘和	545
経済上から見た「安保改定」	鈴木憲久	567
予定原価計算の史的展開		
——標準原価計算の先駆形態——	園田平三郎	588
経済哲学の課題		
——経済現象は経済価値、経済的自由・平等(正義)の実現を理念とする——		
.....	高木友三郎	607
医療保障における医術的契機と行政的契機		
——イギリスの「処方」統制の研究序論——	高須裕三	629
Demise charter の性格について	鷹取稠	652
輸出保険制度について	高橋芳三	673
ウィックセル利子論の一考察		
——特にボエーム利子論との関係について——	田中稔	707
バーナード理論の意義	土屋嘉一郎	730
アメリカにおける映画産業の集中化とその問題点	土屋宗太郎	746
イタリア紀行	戸田正雄	770
アメリカのインフレーション問題	西村光夫	798
現代資本主義論	迫間真治郎	824
海運運賃の若干の考察	松葉栄重	854

業種別コンテンラーメンの研究

——西ドイツにおける紙パルプおよび鉄鋼業のコンテンラーメンを中心として——	真 船 洋之助	872
企業会計用勘定科目の根本的改革の必要を論ず	村 瀬 玄	893
交易の原始形態について	最 上 孝 敬	905
1960年世界人口センサスに用いる職業分類のための基準分類	森 数 樹	925
我が国戦後の賃金抗争とその帰結	八 幡 昇	948
そろばんの伝来についての一考察		
——割算書以前に帰除法が流布していた——	山 崎 与右衛門	972
三度び「商業学の在り方」について(一)(覚え書)	吉 田 隆	1006
中央銀行の信用統制についての一考察	吉 田 寛	1028
会計組織立案	油 谷 従 爾	1055
区別のないものを含むときの円順列について	小 幡 孫 二 (一)	

第30巻 第1号 (1960年4月)

論 文

鹿劫記周辺(三)

——江戸時代における土木事業及び農業と算盤——	山 崎 与右衛門	1
武家の困窮に関する経営論	加 田 哲 二	11
明代の通商史概説(上)	大 塚 恒 雄	51
三度び「商業学の在り方」について(二)(覚え書)	吉 田 隆	95
書 評		
エクスタイン著『イギリスの国民保健サービス』	高 須 裕 三	142

第30巻 第2号 (1960年6月)

論 文

貿易・為替の自由化	吉 田 寛	1
チューネン「孤立国」の問題点		
——すなわち、個別資本と社会的総資本の相互関連、もしくは経営学と経済学の相互接近の可能性に関する試論——	岡 村 邦 輔	33
資本論首章の方法論的研究(一)		
——ヘーゲル精神現象学並びに論理学による第1, 2節の解明——	佐々木 晃	62
19世紀末葉における原価計算の一形態(一)	園 田 平三郎	105
資 料		
小商品生産者の分解と商品生産		
——桐生織物の場合——	木 村 隆 俊	123

第30巻 第3号 (1960年8月)

論 文

国際準備と流動性	西村光夫	1
完全雇用経済下の賃金政策	井手生	33
明代の通商史概説(中)	大塚恒雄	55
自動車損害賠償責任保険の諸問題	根立昭治	99

研究ノート

J・ロビンソン夫人の「技術進歩」について	野本千秋	126
----------------------	------	-----

資 料

問屋制の再検討

——桐生織物の場合——	木村隆俊	137
-------------	------	-----

第30巻 第4号 (1960年10月)

論 文

17世紀アメリカにおける所得に関する諸見解

——アメリカ経済思想史のためのノート(八)——	岡本清造	1
-------------------------	------	---

利子率と経済変動	田中稔	56
----------	-----	----

明代の通商史概説(下)	大塚恒雄	76
-------------	------	----

アメリカ民主主義の形成過程における経済組織の発展についての一考察(四)	佐々木忠一	91
-------------------------------------	-------	----

減価償却における一方法の計算について	小幡孫二	(一)
--------------------	------	-----

研究ノート

ドイツ関税同盟と貨幣体制

——とくに南ドイツにおける Bissing-Berlin の研究——	岡村邦輔	119
------------------------------------	------	-----

書 評

クロスランド著『社会主義の将来』	高須裕三	140
------------------	------	-----

第30巻 第5号 (1960年12月)

論 文

階級闘争論の性格

——マルクス社会思想批判の一節——	加田哲二	1
-------------------	------	---

資本と利益との区別序説	山本繁	50
-------------	-----	----

費用論における最適規模の問題

——中小企業経営論の一研究——	中山金治	65
-----------------	------	----

微分による最頻値について	佐藤輝実	(一)
--------------	------	-----

研究ノート

船主の運送賃に対する未必性について……………根立昭治 103  
資 料

「割算書」管見……………山崎与右衛門 113

精神現象学と価値論

——ロンド・L・ミークによる資本論の方法に関する見解の批判—— ……佐々木 晃 126

紹 介

ゼルナー『水産資源經濟論』

——水産資源問題に関する最近の「近代經濟学的」研究——……………岡本清造 144

黒沢一清

第30卷 第6号 (1961年2月)

論 文

戦前における災害施設と財政資金に関する史的考察

——わが国における農業金融研究の一助として——……………野口平吉 1

経営組織研究の一視角……………土屋嘉一郎 24

会計組織立案(其の二)……………油谷従爾 46

19世紀末葉における原価計算の一形態(二)……………園田平三郎 91

研究ノート

無額面株式研究の一齣……………山本 繁 112

書 評

マーティン著『処方の社会的諸側面』……………高須裕三 129

第31卷 第1号 (1961年4月)

論 文

經濟学の問題一つ二つ

——海外視察報告に代えて——……………山 県 一 雄 1

建設過渡期の中国經濟(一)……………大塚恒雄 47

アメリカ民主主義の形成過程における經濟組織の發展についての一考察(五) ……佐々木 忠 一 93

順位差相関係数(スピアマン法)は信頼出来るか?……………佐藤輝実(一)

研究ノート

貨幣と均衡体系……………田中 稔 135

資 料

企業予算と企業理論

——限界分析の企業予算における適用に関するJ・S・アーリーの実証的

研究——……………真船洋之助 146